

浄化槽をお使いの皆さんへ

『法定検査』を受けましょう

10月1日は「浄化槽の日」です。

浄化槽は保守点検・清掃という維持管理が適切に行われることで、私たちが日々の生活によって汚した水をきれいにしてくれます。

浄化槽の使用者（一般家庭や事業所など）は、年に1回「法定検査」

を受検することが浄化槽法により義務付けられています。

「法定検査」は、浄化槽の維持管理が適正に実施されているかを確認するためのもので、自動車であれば車検のようなものです。必ず受検するようにしましょう。

なお、検査は県知事指定の検査機関で受検することになっていきます。

法定検査手数料

◎10人槽以下…5,000円

◎11人槽以上…6,000円

●法定検査に関する問い合わせと申し込み先

（公社）滋賀県生活環境事業協会

（滋賀県知事指定検査機関）

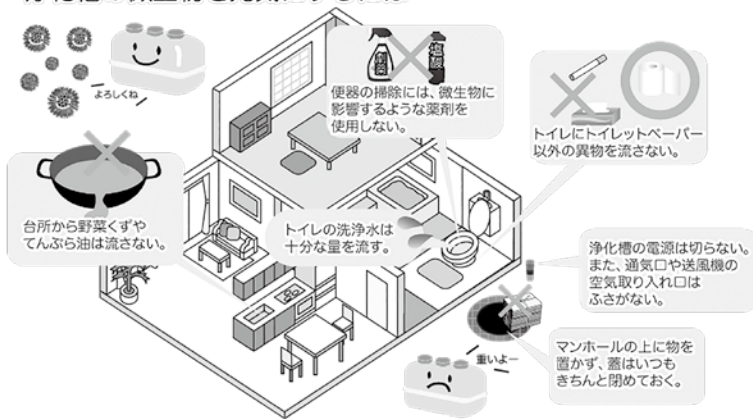
☎077-554-9271

◆問い合わせ先

下水道課 下水道担当

☎0748-5216579

浄化槽の微生物を元気にするには



感雑向綿

— 2019年10月 —
日野町長 藤澤直広

稲刈りが終わるのを待って、いたかのようにならびに咲き誇り、秋本番の季節になりました。4条刈りのコンバインなら3反（約3000㎡）も2時間もあれば収穫できます。手刈りの時代は家族ぐるみで1反が精いっぱい。稲の株をつかみノコギリ鎌で刈り、藁すべで束ね、束に結び、脱穀機に運び脱穀。籾はトンベシにいれてリヤカーで運搬、干し場にコモをひき筵に広げ天日で乾燥。仲間てりすりし玄米に仕上げます。大人たちは春の田植えと秋の稲刈りに備え、背中に灸をすえていました。朝暗いうちに自転車に乗せられ日野駅へ。そして近江鉄道で貴生川駅、SLD51で京都駅、近鉄電車で丹波橋駅、京阪電車で六地蔵駅下車、小栗栖の灸屋に着きます。ささやかな家族旅行でもありました。灸の痕は、百姓の「勲章」のように今も背中に残っています。9月は敬老月間、こうした時代を生き抜いてこられた方々にお会いし、「おかげさんで」「あ

んばいしてもらって」とよく耳にしました。感謝の気持ちなが長寿の秘訣なのかもしれません。

近江鉄道も開業120年余を経過しました。自動車の普及によって利用者はピーク時と比べると半分以下になりましたが、高校生らの通学や高齢者や障がい者などの移動手段を支える大切な公共交通機関であることにかわりはありません。8月末、近江鉄道の経営が赤字になるなかで対応策を協議するため近江鉄道沿線自治体首長会議が開催されました。存続を前提に近江鉄道と県と沿線市町が一丸となって取り組むことが大切だと思えます。そして、「地方創生」といわれる時代にふさわしい国の支援も必要です。

日野駅再生プロジェクト3年目、おかげさまで多数の方々からご寄付をいただき駅舎、上りホームの改築ができ、鉄道資料館を整備し完了します。10月20日には駅舎再生2周年を記念し日野高校生カフェやハロウィンなど楽しいイベントを企画いただいています。街中では栈敷窓アート。さらに元気な町をつくるために力を合わせましょう。

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。

温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字大窪

大字大窪は日野地区の中央部に位置し、古代から中世初期の頃は、日野谷一帯に広がっていた日野牧の一部でした。

16世紀の中頃、蒲生氏が中野城下の町人居地として村井・大窪・松尾地先に「日野町」を形成し、都市として賑わいました。「上鍛冶・下鍛冶・玉屋」など職業名を冠した町名が現在にも伝わっており、往時の繁栄ぶりを伝えていきます。

江戸時代には日野大窪町となり、日野椀・合葉などの地場産業が栄え、多くの日野商人を輩出しました。大窪には、ホイノボリの祭で知られる南山王宮日枝神社や、正崇寺・大聖寺をはじめとする社寺仏閣、日野商人の本宅や棧敷窓の町並み景観など、豊富な文化財が残されています。

日野曳山

大字大窪に伝わる文化財のうち、今回は日野祭を華やかに彩る曳山を紹介いたします。

日野曳山は、今から約300年前の十八世紀前半に誕生しました。はじめは、今より簡素な形であったと思われ、台車に飾台が付いたようなものであったと考えられています。その後、重箱型と呼ばれる細長で背が高い現在のような曳山の形に変化していきました。現存する16基の曳山は、おおむね200〜150年前にかけて建造されたもので、このうち大字大窪には13基の曳山が伝わっています。

曳山にはダシと呼ばれる作り物が毎年新しく作られてのせられます。依代を作って神を迎えたことがダシの始まりといわれており、日野曳山の大きな特徴のひとつです。越川町

には、十八世紀後期〜明治末までの約130年間にわたるダシの内容が記された古文書が伝来しており、当時の世相風俗を知り得る貴重な資料です。

動く美術

曳山には木彫刻・金具・幕など、美しい装飾が施されています。

木彫刻では、組物や欄間、唐破風屋根廻りの彫りものがあり、柱などには漆塗りに金色の色彩をちりばめて豪華さがよりいっそう引き



平成30年度に保存修理事業が行われた金英町曳山「芳菊車」

立てられています。また、細密な彫金技術で作られた鍔金具、美しい文様が織り出された蝦夷錦の幕や、日野にゆかりの画家が描いた下絵をもとに作られた刺繍の幕などが、曳山を華やかに彩ります。当代一流の材料と技術が惜しみなく投入された日野曳山は、「動く美術館」の名に相応しい風格をたたえています。

「建造当時の状態が良好に残された貴重な事例」として高く評価されており、平成30年度からは、専門家の指導のもと、文化財としての価値を維持したまま補修を行う保存修理事業が始まりました。

今回の日野祭では、「巧みの技」に注目して、日野曳山を存分に見学ください。